

福島・いわき・小名浜支援レポート

浜通り医療生協・小名浜生協病院支援活動報告(全日本民医連) 2011年4月30日(土) №6

4月30日(土)の活動

◆浜通り医療生協組合員訪問による震災後の無事確認行動 + 困りごとお助け隊

◆行動の概要

午前:	行動参加:	25人(職員6人、理事・組合員5人、県連1人、支援13人)
	訪問件数:	154件
	対話件数:	98件
	お助け隊:	2軒→倒壊した壁石の撤去

全日本民医連東日本大震災対策本部の提起で4月25日(月)から始まった浜通り医療生協の組合員を中心とした支援活動が、本日4月30日(土)に最終日を迎えました。この日はいわき市沿岸部の勿来地区の組合員さん宅を訪問。

移転前に小名浜生協病院があつた岡小名地区も訪問しました。

困りごとお助け隊は岡小名地区の組合員さん宅に、倒壊した石塀の撤去と落ちた瓦の廃棄処理を行ないました。軽トラで3往復し、きれいに完了しました。



第一次支援行動 大きな成果を残し終了

全日本支援延べ86人、県連内支援延べ14人、職員延べ74、理事・組合員延べ32人
組合員延べ1660件を訪問し、延べ963人と対話して無事を確認。不明96軒
困りごとお助け隊9件出動。壁石の撤去、壁の仮設、量上げ、飲料水配達など実施

今回は、当初予定していたいわき市沿岸部にお住まいの医療生協組合員1200人を大きく上回る約1660人の組合員宅を訪問し、被災した方々の声を聞くことができました。組合員さんの困りごとに応じてお助け隊の活動も具体化することができました。今後の行動については、現地で振り返りを行なっていただき、課題を明らかにした上で、あらためて方針を検討する予定です。

◆◆ 訪問活動トピックス・被災者の声 ◆◆

- ◆小浜岩間地区。津波でほとんど全壊。汐見ヶ丘小で避難所生活をしている。アパート等の入居は決まったが部落ごとではなくバラバラ。原発の情報がきちんと発信されてないので心配という声あり。
- ◆勿来南波アリーナ地区。4/11の余震で道路のひび割れや地盤沈下が激しくなった。勿来は家の被害は比較的少ないが、水産業の風評被害が気になった。
- ◆植田佐藤地区。屋根瓦が落ちたり、塀の倒壊、住めなくなった家がたくさんあった。地域支部の日常的なつながりがある。
- ◆勿来関田地区。ほとんどの家が屋根瓦の落下やブルーシートを敷いている。余震の不安を訴える方が多い。

【事務局短信】▼本日4/30(土)は全日本民医連が呼びかけた小名浜支援の最終日。行動に参加してくれた東京民医連、千葉民医連、茨城民医連、そして全日本民医連のみなさん、本当にありがとうございました。▼福島県内からは福島民医連事務局の方と福島医大の医学生さん、会津医療生協の職員がかけつけてくれました。そして、私たち支援者を受け入れ、毎日の訪問準備とお助け隊の段取りをしてくださった浜通り医療生協の佐藤芳一主任や工藤史雄さんら5人の組織部員と、訪問行動で支援者をリードしてくれた浜通り医療生協・小名浜生協病院の職員・理事のみなさんには心から感謝します。▼地域訪問で明らかになったのは『復旧と復興はまだこれから...』ということ。そして地域には困っている方がまだ沢山いること。健康で安心して住みつづけられるまちづくり...それは私たち民医連がずっと求めてきたものです。この震災を機に、そんなまちづくりをすすめようではありませんか。▼この1週間で示された浜通り医療生協・小名浜生協病院の職員・理事・組合員のみなさんの底力を發揮すれば何でもできると思います。なにせ全国の民医連の仲間たちがついてますから。(田)